

04

実装・運用方法を計画し、
AIを実際の業務に組み込め



はじめに：本パートで学べる内容

本パート「**本番実装・運用計画**」では、開発したAIモデルを実際の業務環境に導入するため、導入後の業務プロセスの設計・効果検証／算出・システム実装方針を策定するのに必要なスキルを学ぶことができます。

(具体的には、以下の内容を学びます)

- 業務プロセス設計スキル
 - 業務環境下でのデータ取得方法、AI導入後の業務プロセス再設計、再学習フロー設計
- 効果検証設計／算出スキル
 - AI導入後のインパクト算出、コスト踏まえた費用対効果算出

企業へのAI導入をスタートするために必要なことを、
このパートを通じて理解しましょう！



演習⑤-1：本番実装・運用計画策定に必要な項目の洗い出し

課題

開発したAIを実際の業務環境に組み込むため、本番実装・運用計画を策定するにあたり、どのような項目について検討すべきか、書き出して下さい。

**次頁に、項目の例を示しています。必要に応じご確認頂いた上で、
演習⑤-2:本番実装・運用計画策定に進んでください**

演習⑤-1：本番実装・運用計画策定に必要な項目の例

開発したAIを実際の業務環境に組み込むため、本番実装・運用計画書を作成するにあたっては、以下のような項目について、検討を行ってください。但し、以下項目はあくまで一例ですので、次ページの本番実装・運用計画策定においては、必要と思われる項目は適宜追加頂き構いません。

- どのような業務フローで運用するか
- どのような効果が想定されるか
- 開発したAIモデルをどのように動かすか
 - AIモデルに入力するデータや予測結果のデータ等をどのように持つか
 - どのように精度を監視するか
 - イレギュラーなインプットに対してどのように対応するか
 - 業務範囲が大きくなった場合にどう対応するか

3点目の、「開発したAIモデルをどのように動かすか」については、今後のシステム実装を見据え、システム構成の概略図とともに示せると、システム構築時の、社内システム部門、または外注先SIerとの議論がスムーズです

演習⑤-2：本番実装・運用計画の策定

課題

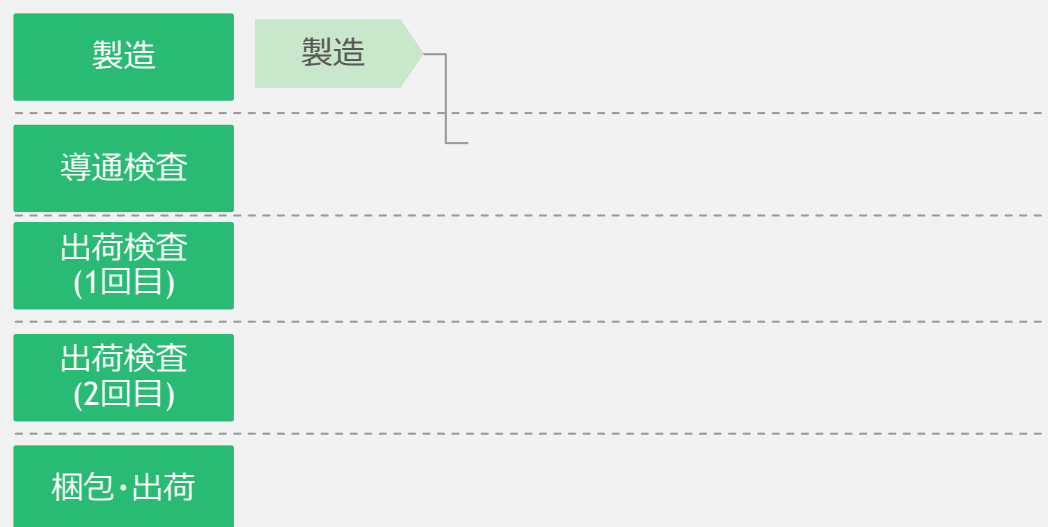
開発したAIを実際の業務環境に組み込むため、以下の項目を抑え、実装・運用計画書を作成してください。

但し、前提条件を揃えるため、これ以降はランキング1位のモデルをベースとし、本番実装・運用計画を検討してください。検討の前提として、モデルの精度を把握するにあたっては、コンペ1位のモデルによる良否判定結果と、正解データを参照してください。(ご希望の方はご自身で構築したモデルで検討いただいても構いません。解答・解説は、ランキング1位のモデルではなく、事務局にて構築した一定の精度が見込まれるモデルを使用する前提で用意をしています。)

(各データは、PBLサイトの演習⑤⑥ページのデータタブご参照)

解答の枠組み：AI実装前後の業務プロセスの比較

現状



あるべき姿
